

令和5年度 幼稚園教育実習報告

幼稚園教育実習担当 石川千穂子・石川 照代・大関 美鈴
助安 明美・安部えつ子・渡邊はるか

令和5年度幼稚園実習は、観察実習を1年次9月に1週間、教育実習を2年次10月に3週間、大分県内、県外の公立幼稚園・私立幼稚園・幼保連携型認定こども園等で実施した。

2年間にわたる教育実習指導の中で、日誌の記入や保育指導案の作成等の指導と合わせて、子ども理解や援助の仕方といった保育・教育の基礎、実習の目的や意義についても講義を行い、より具体的な指導・援助に結び付くよう指導を行った。2年次後期教育実習後は振り返りを丁寧に行った。

*

1. 実習先 観察実習・・・初等教育科学生 146名（県内82件 県外2件）
教育実習・・・初等教育科学生 166名（県内86件）
2. 実習期間 観察実習・・・令和5年9月4日(月)～9月8日(金)
教育実習・・・令和5年10月5日(木)～10月25日(水)

3. 教育実習の意義・目的

大学で学んでいる専門的知識や技術を具体的な体験を通して理解するとともに、実践する中で、一層学習を深め、知識・技術を総合化し、応用力を身につける。さらに、現場で得た課題を持ち帰って学習することにより、保育者としての意識や知識、教育観を養う。

4. 教育実習の目標

1. 子どもと触れ合い、一緒に生活することによって、子どもの気持ちや心身の発達の様子を知る。
2. 園の方針を理解し、園の組織の中で働いて保育者の主たる仕事である保育の在り方をはじめ、広範な仕事内容を理解する。
3. 子どもの発達に合わせた保育指導案を作成後、設定保育を実践し、事後は省察をする。
4. 園の環境、設備、遊具などを実際に使ってみて、理解を深める。
5. 子どもや保育者の姿から、子ども観・発達観を深める。

5. 教育実習を担当して

学生にとって、幼稚園教育実習による4週間は、大変貴重な学びの場となっている。実際に子どもたちと一緒に幼稚園で生活することによって、子どもたちの園での様子や保育者の援助などを直接体験することが、学生を大きく成長させている。さらに、実習中における保育指導案の作成、日誌の記入など学生にとって、難しい課題においても保育者からの丁寧な指導や大学による講義と結びつけることで、より確かな深い学びを得ることができている。

今後はさらに保育者、社会人としての資質を高めるため指導体制の改良に努めたり、実習先と養成校との協働体制の強化にも努めたりしていきたい。

園児の育ちと幼保小の連携

初等教育科2年 Aクラス 柴田 愛望

私は今回、別府市の公立幼稚園で実習させていただきました。一人ひとりの個性が強く16名とは思えないほど元気な子ども達と出会いました。

10月という時期に行う活動と共に大きな行事である「運動会」を実習で経験することができました。別府市の公立幼稚園は小学校と併設していて小学校と共に運動会に参加します。そのため、日々の活動や小学生と合同で練習をする時の子どもたちの姿、保育者の行動などを学ぶことが出来ました。実習を通して大きく三つの学びがありました。

一つ目は、小学生の影響です。子ども達が小学生から沢山の刺激をもらうことが出来ます。子ども達は運動会練習を運動場で行った後、小学生の運動会練習を見て遊具で遊びます。低学年では玉入れや徒競走の練習をしていて全校でリレーの練習をしていたその姿を見ていた子どもたちは目が輝いており、自然と赤白で応援をする姿へと展開していきました。園舎に戻り外遊びの時、保育者がバトンとゴールテープを渡すと「リレーをしたい」という子どもたちが集まり自分たちでリレーチームを作りルールや役割を決めて楽しむ姿がありました。そこには、「リレーをしたい」という言葉には走りたいということだけではなく笛を鳴らす係、ゴールテープを持つ係などサポートしたいという人も多くいました。子ども達は、走っている子に憧れを抱くのはもちろんですが周りの姿も見ていて小学生から様々な場面で影響力を受けているなと思いました。

二つ目は、子どもの活動を考えて支援することが全てではなく周りの環境整備の大切さについてです。幼保小連携「接続期」という言葉が

ある通り、幼稚園では小学校につながる為の力をつけていく年でもあります。だからこそ活動一つひとつが大事になってきます。活動を行うための環境はとても大切だと感じます。例えば、子どもたちの発達や興味関心に合わせた環境を作る上では、遊具の場所に花壇を並べたり生き物の場を作ることで自然と触れ合うことが出来たり、季節の野菜を校内で地域の方と一緒に育てること、担任やクラスの子だけでなく小学校の児童や先生とも関わることができる環境があることで人的環境を豊かにすることができ、それはコミュニケーション力に繋がり新たな発見をすることができるといったことに繋がります。保育者は活動を考えていくうえで子どもの発達や人との関わりを考えそれを環境構成に繋げていくことが大切であるということを学びました。

三つ目は、子どもへの優先順位です。外遊びで鬼ごっこを行った時、子どもたちは興奮するとどんどん自分たちが有利となるルールが増えていき、一緒に遊んでいる子の中で楽しくなさそうな子やルールが理解できなくなっている子がいました。その時、どうしたら楽しく遊べたのか何がダメだったのかを理解してもらうためにも限られた時間の中で話し合う場を作ることがあり、その話し合いをすることで遊びが主体的になっていく姿を見て、一つの遊びでも優先順位を考えて保育していくことが大切だと学びました。

これらのことから、子どもたちのために保育者は子ども一人ひとりの姿からだけではなく、地域の方々や小学校の方との関係を築きながら活動を考えていくことが大切であり、小学校と併設されている環境を活かした保育がなされていると感じました。

二年間の実習を通して、私の中で幼稚園は新しい発見が出来る年齢であると思います。幼稚園教諭となり子どもたちと共に新しい発見に出

会えるよう卒業までに今の子どもの姿や環境の
勉学に励みたいと思います。

保育者から学んだこと

初等教育科2年 Bクラス 稲吉 楓佳

私は幼稚園教育実習で、保育者から多くのこ
とを学びました。その中でも印象に残っている
ことが3つあります。

1つ目は、子どもの気持ちを汲み取り、援助
をしていた姿です。自由遊びのとき、片付けの
時間になっても遊びを続けている子どもが多く
いました。私は「片付けをしようね」と声をか
けましたが、子どもたちは遊びをやめませんで
した。そんな子どもたちに対して、保育者は遊
びの状況を把握し、子ども一人ひとりに合った
声かけをしていました。納得して片付けを始め
た子どもたちの姿から、保育者に自分の気持ち
を理解してもらえたという喜びを感じました。
子ども一人ひとりのことを理解し、声かけをす
ることの難しさと大切さを学びました。

2つ目は、子どもの安全を一番に考えて、保
育をしていたことです。私は設定保育、1日保
育をするために指導案の作成をしました。環境
構成や保育者の援助を書く時には、子どもが安
全に活動に取り組むことができているかどうか
を考えることが大切と教えていただきました。
設定保育では、子どもから目を離さず、安全に
活動を終えることができましたが、1日保育で
は、活動と活動の間の環境構成や声かけが不十
分だったと感じています。常に子どもたちのこ
とを考え、様々な場面を想定して、指導案を作
成することの大切さを学びました。また、子ど
もたちの保育をする責任の重さを実感しまし
た。

3つ目は、保育者同士の連携です。保育者同

士がコミュニケーションをしっかりととり、情報
の共有、活動の分担をしていました。担任保育
者の負担が大きくならないように他の保育者が
協力して、助け合っていました。さらに、担任
保育者が自分から活動の補助をお願いする場面
も見られました。保育者同士が信頼して、助け
合っているからこそ、毎日の保育が円滑に進ん
でいると思いました。私は、担任ならなんでも
一人でやり遂げないといけないという考えがあ
りましたが、途中で活動がうまくいかなかったり
したときに影響があるのは子どもたちという
話を聞き、頼ることは恥ずかしいことではない
と思いました。保育者同士が頼り、助け合うこ
との大切さを学びました。

今回の実習の学びや反省から私の今後の課題
は、子どものことを1番に考えて、保育ができ
ようになることです。そのために、まずはコ
ミュニケーション能力を身に付けたいです。保
育者や保護者に子どもの様子や状況を伝えると
きに、しっかり伝えられるようになるためです。
それから、子どものことを考えて、指導案を作
成できるようになりたいです。子どもの目線に
立って環境構成を考えたり、子どもの姿を想像
したりできるようになって、より良い保育を実
践したいと思います。分からないところや難し
いと思うところがあったときには、積極的に相
談するようにしたいです。一人で抱えるのでは
なく、周りに相談することの大切さも学んだの
で、学んだことを保育の現場で活かしたいです。

私は今回の幼稚園教育実習で保育者の姿を見
て、さらに保育者になりたいという思いが強
くなりました。子ども一人ひとりの性格や成長段
階を理解し、一人ひとりに合った声かけや援助
ができるようになりたいです。そして、笑顔で
元気いっぱいの保育者になれるようにこれか
ら頑張ります。

二年間の学びと保育者としての在り方

初等教育科2年 Cクラス 阪田優里菜

幼稚園実習では、五日間の観察実習と三週間の教育実習を行いました。満3歳児から5歳児までの子どもたちと関わり、保育者の援助や言葉掛けを学びました。

観察実習は、短大に入学して初めての实習でした。始めは、保育者に言われたことを実践するといったように周りをみて積極的に行動することができませんでした。実習中はちょうど運動会練習の真っ只中で、5日間はあつという間に感じました。

3歳児クラスに入った時は、初めて幼稚園に入園し保護者と分離不安を感じている子どもが多く見られました。朝の登園時から、母親と離れるのが難しく靴箱の前で号泣してしまい、保育室に入ることに時間がかかってしまう子どもがいました1年時の私は、その子どもに対して優しく「どうしたの?」や「大丈夫?」としか言葉掛けの方法が見つかりませんでした。私がその子どもにどう対応すればいいのかと困っていると、近くにいた保育者が来て「Aちゃん今日もよく頑張ってくれたねえ。」とまず子どもを受止めていました近くで保育者の援助を見ていた私は気持ちを聞くのではなく受け止めることが大切なんだと学びました。入園してあまり慣れていない中でも登園して来られたことを認め、「今日も一緒に頑張ろうね。」という気持ちも込めて、登園時の保育者としての役割が重要なことを学び、次はもっと言葉掛けを大切にしようという目標になりました。

4歳児クラスでは、3人4人で遊んでいる様子から友達との関わりが増え学んでいく時期でした。時には子ども同士で考えが合わずにトラブルになってしまう場面が多くありました。そんな時保育者は相互の気持ちを聞き、話しを理

解して仲介に入っていました。私はその為に保育者としてひとりの子どもを見るだけでなく、全体を見ることが大切だと学びました。目の前の子どもだけを見ているだけになると、いざトラブルが起きた時にすぐに対応が難しいからです。また、危険が伴う時には、すぐに止めに入ることが必要であるからでした。

5歳児クラスでは、子どもたちだけでできることは子どもたちで行う様子が見られました。困っている友達や保育者を手伝うなど、5歳児に私も助かることもあり、とても関心しました。また、運動会練習では、パラバルーンがどうすれば上手くいくのかクラスの皆で考えられる場を作り「次の練習ではもっとこうするといいね。」など保育者が言葉を掛けることで、より子どもたちで作る運動会になっていくと学びました。

今年の教育実習では、昨年できなかった子どもを受容する言葉掛けや年齢に応じた保育者の援助や配慮を沢山見つけることを目標にして頑張りました。月末に予定されている学園祭に向けて秋の歌やクラスの歌を毎日練習していました。歌詞や振り付けを覚えることが必要で、文字が読めない3、4歳児クラスの保育者は歌詞を先に伝えて歌えるように工夫して配慮を行っていました。1年時の私では知らない曲を只々子どもたちと一緒に歌っているだけで、保育者の子どもに対する細かい配慮に多分気づけていなかったと思いました。二年間の幼稚園実習を通して、子どもの気持ちを理解して保育を日々行わなければならない重要性を学べたと思います。これから保育者として、子どもの人生の一番大切な場面を預かることを理解し、この実習で沢山の保育者から保育の在り方を考えることができました。保育者になって日々、自分の保育を見つめて反省し、より子どものための保育ができるように、実習で学んだことを活かして頑張りたいと思います。

設定保育をしてみても

初等教育科2年 Dクラス 野島 二胡

私が、幼稚園実習で一番心に残ったことは、設定保育です。私は約3週間、3歳児のクラスに入り、実習をしました。設定保育も同じクラスで行い、「もこもこおばけ」という製作の活動をしました。紙コップの中にストローで息を吹き込むとビニール袋のおばけが飛び出すというもので、子どもたちには、ビニール袋に私が事前に準備した目や口を貼って、おばけの顔を作ってもらったり、穴をあけた紙コップにストローを通してもらったりして、製作活動をしていきました。


実習初日、指導案を担当の先生に見てもらい、「多くの子どもと関わり、予想される子どもたちの様子をもっと書くといい」と教えてもらいました。日々、同じクラスで過ごし、子どもたちの様子を意識して見ていく中で、一人ひとりの個性なども少しずつわかるようになりました。担任の先生と相談しながら、子どもの様子を見て、「あの子だったらこんな反応をしそうだな」「こんな行動するだろうな」などと考えながら指導案を作成していきました。指導案の作成では、担任の先生の手助けもあり、今までで一番よくできたと思えるような指導案を作ることができました。

指導案を作成するところまではよかったのですが、そこで一度満足してしまい、なかなか材料の準備や指導案をすべて覚え、流れを練習することができず、後回しにしてしまいました。その結果、設定保育前日の、先生との1対1での設定保育の練習では注意を受けてしまい、また慌てて材料の準備をしたため、ストローとビニール袋がしっかりつながっていませんでした。

本番の設定保育では、準備不足で、説明が分

かりづらくなってしまい、緊張もしていて、声も小さくなってしまいました。また、緊張で、自分から楽しむことができず、一番盛り上がってほしかったおばけを膨らませて見せる場面で、子どもたちの反応があまりよくありませんでした。自分の予想していた子どもの姿と違っていたため、動揺してしまい活動を進めることが不安になりました。製作を始めると一人の子どもがなかなか作業をせず、どうにか一緒に製作をしてほしいと思い、その子どもに時間をかけてしまいました。一人の子どもに集中してしまったため、全体を見ることができず、また子どもたちが楽しんでほしかった、作ったもので遊ぶ時間をとることができないまま時間がたち、活動を終えてしまいました。設定保育をしている途中で、気持ちが下がってしまい、何度もあきらめそうになりながら、終えて反省すべきところがたくさんある活動となりました。

設定保育を終えてみて、子どもたちにわかりやすく説明をしたり、雰囲気を作ったり、子ども全体を見て対応したり、事前に準備をしたりしている保育者のすごさを実感することができました。見ているだけでは、わからない大変さを学ぶことができ、とてもいい経験になりました。多くの失敗した設定保育でしたが、子どもが少しの空き時間に遊んでいたりと、保護者に作ったおばけを膨らませて見せている様子を見たりして、保育のうれしさも体験することができ、とても印象に残りました。この経験を活かし、これから現場に出る際は事前の準備をしっかりとし、自分から楽しむ気持ちを忘れず、子ども一人一人の様子を見ながら活動をするよう意識していきたいです。



子どもの育ちを支える 日々の関わりで大切なこと

初等教育科2年 Eクラス 岡田 宣恵

「りんごマークのおかだせんせい」フェルトで製作したりんごの名札を昨年に引き続き左胸に着けていると、年長の女兒が覚えており満面の笑みで声をかけてくれました。約一年振りの幼稚園実習。子どもたちとの再会に心躍る思いと、ちゃんと出来るかなと緊張を抱えていた実習初日でしたが、その声に心が温かくなりました。

三週間の実習では、日常の保育とともに運動会練習、運動会、動物園見学、避難訓練、年少・年中・年長での三回の設定保育と、多くの事を経験させていただきました。

その中で特に学んだことは①導入の大切さ②子どもの見えない心を探る③特別な配慮ではなくその子どもに合った援助をします。

①私は導入というと“子どもたちが保育者に注目できるように、また活動に興味を持てるように活動に関連した絵本を読んだり、手遊びをしたりすること”と考えていました。しかし年長クラスで行った一回目の設定保育の反省会の際に、“子どもたちが「やってみたい」と主体的に取り組めるように環境を構築することも導入である”ことを教えていただき、それはその活動の時間から始まるだけではなく、日々の子どもとの関わりからつなげていくことが大切であることを知りました。

②運動会前日、年長クラスで4～5名と一緒にオセロをして遊んでいました。しばらくすると他の遊びに移る子どももおりAさん（男児）と二人になりました。その際に急にAさんが「ぼく明日の運動会大丈夫かな。緊張する」と強張った表情で発しました。いつも活発で元気いっぱいAさん、自身の気持ちをしっかり伝えるこ

とができており運動会練習ではリレーやフラッグが大好きで自由遊びの時にもよくしていました。

「楽しい」という気持ちが伝わってくるほど笑顔だったので「緊張する」という言葉に驚きました。「大丈夫だよ。先生いつもAさんのかっこいい姿見てたよ。もし失敗してもAさんの頑張っている姿を見たらきっとおうちの人、とっても嬉しいと思う。」と伝えると、ニコッと笑顔になりました。外見からは知ることが出来ない見えない子どもの心。年齢が上がるにつれ分からない部分が増え、難しくなっていくことを感じます。どのようなことを考え、不安に思っているのか、今の心の状態はどうか、普段の様子や行動をよく観察し、探っていくこと（探ろうとする姿勢）が大切であると学びました。

③特別な支援を要する子どもが数名いました。私はインクルーシブ教育・保育の実践を目指し学びを深めており、特別な配慮やその援助の工夫で子どもたちが楽しく園生活を送れると考えていました。しかし、保育者の援助から「特別な配慮」ではなく、どの子どもに対しても、ただ「その子どもに合った支援はなにか」を、時間をかけて探り連携しながら保育を行っていくことが大切なことだと気付きました。もちろん、特性に対しての必要な知識や援助はありますが、それは特別なことではなく全ての子どもに対してあてはまることです。同じ子どもはいないので、一人一人に合った、寄り添った支援を心がけ日々丁寧な援助を行っていくことが子どもの育ちとクラス作りにもつながっていくことを教えていただきました。

約一年半の学びを行い臨んだ幼稚園教育実習。短大での練られたカリキュラムに沿って得たこと一つ一つが実習で生かされ、さらに反省点と今後の課題が見えてきました。子どもの心を理解をすることに日々努め、この先も学ぶ姿勢を忘れずに保育にあたりたいと思います。